

国語 第2学年 組み立てを考えて、はっぴょうしよう 検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：二年生で経験した出来事を、聞く人が様子を思い浮かべられる順に紹介する。感想を何度も繰り返すのを避け、行動や出来事の前後をそろえて話す。A(1)イの学習として、二年生の思い出の発表メモ。出来事の順、特に伝えたい行動、そのときの思い、聞き手からの質問を残す。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、自分が行動したことや経験したことを基に、相手に伝わる順序を考えて話しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。A(1)イの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：二年生の思い出の発表メモを残す。出来事の順、特に伝えたい行動、そのときの思い、聞き手からの質問を残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、A(1)イに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：話したいことを思い付く順に言う。思い出の多さで競う。原稿を読むことだけに集中する。これについて、出来事のメモを実際の順に置き、聞き手がたどれたかを尋ねる。声を出ることが難しい児童は教師との練習や録音等を選べるようにする。日々の活動も特別な行事も題材にできるようにする。〔知識及び技能〕(1)イとA(1)イを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「聞く人にそのときのことが伝わるように、何を先に話し、何を後で話しますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、A(1)イに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：二年生の思い出の発表メモは紙に記録できる。出来事の順、特に伝えたい行動、そのときの思い、聞き手からの質問を残す。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をA(1)イの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。A(1)イで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：原稿を全部暗記させるのか。

返し：A(1)イのねらいは話す事柄の順序である。メモを見ながらでも、聞く相手を意識して順序を保ち、必要な説明を足せば学習の姿として捉える。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「聞く人にそのときのことが伝わるように、何を先に話し、何を後で話しますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。A(1)イに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

